

東京の観光振興を考える有識者会議（平成28年12月16日） 配布資料

ぴあ株式会社 代表取締役社長／矢内 廣
PIACORPORATION

■実行段階への移行を

⇒当面の課題と対応策への議論は尽くされており、
優先順位を決めて、速やかに実行に移すべき段階に来ていると認識。

■中長期的構想の必要性

⇒一方で、中長期的展望を見据えた具体的な構想と、
その実現に向けた、方向性の検討が求められている。

※文化・エンタテインメント領域に関して言えば、

- 1)東京の最大の観光資源は、文化・エンタテインメントにある。
- 2)次世代に残せる文化・エンタテインメントの発信基地としての、観光産業振興の一大拠点を創るべき。
 - ・古くからの日本文化と新しい日本文化の両方を発信する、文化施設の集積地の創出。
 - ・外国人も日本人も、子供から大人までが幅広く享受できる賑わいと安らぎの演出。
- 3)官民連携(コンセッション等)モデルの導入による、責任ある運営体制を作る。

⇒こうした方向性を指し示し、中長期構想を具体化する検討プロジェクトの発足を提案したい。